琉大、男女制す

ハンドボール 県学生リーグ

ハンドボールの県学生リーグが1～3日、名桜大で3大学が参加して行われ、男女とも2勝した琉球大が優勝した。

大会は、1日から福岡県で開催予定だった第30回九州学生春季リーグがコロナ禍で中止となったことを受けて急きょ開催。男子は九州リーグ1部の名桜大と琉球大、同2部の沖縄国際大、女子はいずれも同1部の琉球大、沖国大、名桜大が出場し、覇を競った。

【男子】▽決勝リーグ
琉球大 26（13－10、13－14）24 名桜大
琉球大 17（9－11、14－14）25 沖国大
名桜大 25（12－14、13－9）23 沖国大
▽同最終成績 ①琉球大2勝②名桜大1勝1敗③沖国大2敗
〈個人賞〉▽優秀選手賞 中村泰斗、宮城紘大、村吉政柊（琉）林照越、富川優斗（名）山田優大、洲鎌魁斗（沖）▽得点王 ①林15点②洲鎌12点③宮城11点▽7メートルスロー阻止賞 近藤拳太（琉）

【女子】▽決勝リーグ
琉球大 30（18－10、12－9）19 名桜大
琉球大 26（14－6、12－5）11 沖国大
沖国大 21（10－9、11－6）15 名桜大
▽同最終成績 ①琉球大2勝②沖国大1勝1敗③名桜大2敗
〈個人賞〉▽優秀選手賞 真座あすか、小林可怜、宮里美凪（琉）知念稜雪、山田若奈（沖）田中菜那、井上陽（名）▽得点王 ①真座15点②山田10点③井上9点③田中9点▽7メートルスロー阻止賞 知念

琉球大－名桜大　前半、相手を振り切り、シュートを決める男子琉球大の砂川佳之将＝名桜大学北部生涯学習推進センター（下地広也撮影）

一進一退 難敵破る

ハイライト

男子

男子琉球大は、ここ数年勝てなかった名桜大を26－24で制して優勝を決めた。浦崎達貴コーチは「格上に勝てたことが今後の自信になる」とうなずいた。

前半から競り合い、13－14で折り返した後半も一進一退の攻防が続いた。24－24の同26分、主将の村吉政柊が相手を振り切って中央からゴール。さらに3年生の金城盛宇がシュートを決め、2点差に広げた。

その後の1対1で、GK佐久本晴生が右足に当ててシュートを止めるビッグセーブが飛び出した。猛攻をしのぎ、難敵から念願の勝利を飾った。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、5月に開催予定だった九州学生春季リーグが1週間前に中止となった。昨年に続いて大学生の公式試合がなくなることを危惧した3大学の監督らは県協会の協力も得て代替大会を急きょつくった。

佐久本は「久しぶりの試合で新鮮な気持ちで戦えた。いろいろな人たちに支えられてプレーできている」と感謝。村吉主将は「この優勝が励みになる。秋の九州リーグでも名桜に勝ち、インカレに出場したい」と充実感をにじませた。（比嘉大熙）

攻守圧倒 流れ渡さず

女子

事実上の決勝となったリーグ最終戦は、女子琉球大が沖国大に一度もリードされることなく圧倒し、26－11で破って栄冠に輝いた。

序盤、GK小林可怜が好セーブを連発。前に出てボールを奪う強気のディフェンスがチームを勢いづけた。攻めては得点女王に輝いた真座あすか主将の切り込みの鋭いシュートのほか、170センチの長身を生かした宮里美凪の相手頭上から振り抜くシュートで次々と得点を重ねた。浦崎達貴コーチは「最後まで相手に流れを渡すことなく勝てた」とたたえた。

コロナ禍で昨年は大学の公式戦が全て中止となり、先が見えない中で週5日の練習を続けた。モチベーションを保つのに苦労したという。真座主将は「みんなで話し合いながら頑張ってきた。大会がなく卒業した先輩の思いも背負って、インカレに出場したい」と力を込めた。

（上）男子優勝の琉球大
（下）女子優勝の琉球大

琉球大－沖国大　後半、女子琉球大の真座あすかが速攻から22点目のシュートを決める